

たてわり活動を通して



一緒に弁当☆

今日はどのようなたてわり活動を行っているか、その中の子どもたちの姿や遊びについてご紹介します。

今回はどのようなたてわり活動を行っているか、その中の子どもたちの姿や遊びについてご紹介します。

今日は2歳児クラスの子どもたちが楽しみにしている4歳児クラスとの散歩の日。憧れのお兄さん、お姉さんに手を握ってもらい、お互い照れ臭そうな姿が見られます。

「しゅっぱつしんこー！」といつになく張り切った様子で歩き始めました。歩幅の狭いAちゃんでしたが、お姉さんは歩幅を合わせながらリードしてもらい、「もうすぐ着くよ」と励まされながら歩いていました。

散歩先ではカエルを発見。Aちゃんが興味津々な様子を感じ取り、4歳児のBちゃん（男の子）がカエルを追いかけ、手で覆うように捕まえてくれました。その姿を必死に追いかけ見ていたAちゃん。「触りたい」と言うAちゃんに、いつもだつたら「だめーこれは僕が捕まえたん

いっしょに
さんぽ

かえるだ！



だから」と独り占めするBちゃんですが「いいよ、ここ触るといいよ」と優しく誇らしげに声掛けをする姿には自分がお兄さんであることの自覚や小さい子への気遣いがあり、頼もしさを感じました。日頃、同年齢では味わえない感覚を「見て、触れて、感じて」遊びを通して体験しています。



「あぶくたつたゞにえたつたゞ」とわらべ歌遊びが始まりました。ふだん一人遊びが多い2歳児のAちゃん。お姉さんと手をつなぐのを恥ずかしがり、躊躇する姿がありましたが、お姉さんが優しく手を差し出し握ってくれ、安心した様子でした。その後も一緒に手をつないで逃げたり、鬼に捕まると「つかまっちゃつたね」と優しく話しかけ、かかわってくれることで、少しずつ恥ずかしさがやわらぎ、笑顔が見られました。

終わってからも「楽しかった!」「またやりたい」「お姉ちゃんたちといつ遊び?」との声が聞かれ、楽しかったことが伺えました。お姉さんと一緒に活動し、優しくしてもらつた体験から、Aちゃんは人とかかわる

喜びや楽しさを感じることができたのでしょう。Aちゃんはその後、恥ずかしがりながらも自分から「入れて」と輪に入ろうとしたり、友達と一緒に会話をしながら遊んだりする姿が多く見られるようになり、生きいきと過ごしています。

たてわり活動を通して、子ども達が互いに教え合い、学び合い、共に育ち合うことができるよう、この活動を大切にしていきます。

「あぶくたつたゞにえたつたゞ」とわらべ歌遊びが始まりました。ふだん一人遊びが多い2歳児のAちゃん。お姉さんと手をつなぐのを恥ずかしがり、躊躇する姿がありましたが、お姉さんが優しく手を差し出し握ってくれ、安心した様子でした。その後も一緒に手をつないで逃げたり、鬼に捕まると「つかまっちゃつたね」と優しく話しかけ、かかわってくれることで、少しずつ恥ずかしさがやわらぎ、笑顔が見られました。

たてわり活動を通して、子ども達が互いに教え合い、学び合い、共に育ち合うことができるよう、この活動を大切にしていきます。



あぶくたつた
にえたつたゞ



【その他のたてわり活動】

- ・集団あそび(イス取りゲーム)
- ・ごっこ遊び(ままごと、鬼ごっこ)
- ・給食・おやつ配り
- ・みんなで給食
- ・午睡時の寝かしつけ など



【あぶくたつた遊び方】

- ①鬼を決める。
- ②鬼はしゃがんで両手で顔を隠す。他の子は鬼を囲んで手をつなぐ。
- ③あぶくたつたの歌を歌いながら、歌に合わせて鬼の周りをまわる。
- ④みんなが「さあ寝ましょ」の言葉でしゃがみ、寝たポーズをした後、鬼がノックをする。「トントントン」寝ている子たちは、答える。「なんの音?」
- ⑤鬼は、「風の音」「物が落ちた音」など自由にいろんな音を答える。寝ている子たちは「あーよかった」と言ってまた寝る。④⑤を繰り返す。
- ⑥鬼は、自分のタイミングで「おばけの音」と言う。
- ⑦寝ている子たちは「キャー」と一齊に逃げ出し鬼ごっことなる。

たてわり保育をする中で、年上の子にとっては、年下の子に対して思いやり、手伝う、お世話を、配慮する、見守る(教えて学ぶ)ことができることを体験することで自信や喜びにつながっていきます。

年下の子にとって、年上の子に対して憧れや目標をもち、真似しようとする(見て学ぶ)ことやサポートしてもらい、できたことが喜びや意欲にもつながります。そして、自分がしてもらったように、小さい子に接することができるようになっていくのだと感じます。

たてわり活動を通して、子ども達が互いに教え合い、学び合い、共に育ち合うことができるよう、この活動を大切にしていきます。

まとめ